

第11回 食の討論会

「過疎と高齢化と財政難の北海道地方都市は活力をとりもどせるか」

講師 小樽商科大学大学院ビジネススクール 相内俊一 教授

1. はじめに

地域産業研究会では平成17年から「食の討論会」を継続して実施している。今回は平成22年11月29日に実施した「第11回食の討論会」について報告する。

講師に小樽商科大学大学院ビジネススクール(以下OBSと称す)相内俊一教授を招き、講師がプロジェクト責任者となって赤平市をモデルに進めている、大学(小樽商科大学、北翔大学)、コープさっぽろ、赤平市の四者協力による「あかびら・地域まるごと・元気アップ・プログラム」を中心とした、過疎と高齢化、財政難にあえぐ北海道地方都市における活性化について講演をいただいた。このプログラムについてはHTBの「イチオシ!」でも特集として紹介された。

地域産業研究会の活動目的のひとつには、「地域資源」や「食」を通じて北海道の活性化に役立つことであり、今回の講演は、当研究会と違ったアプローチによる地域活性化の取り組みとして、その視点は大いに参考になった。

2. 講演の概要

(1) 地域都市の活力の要素



北海道の自治体のほとんどが、この講演のキーワードである過疎、高齢化、財政難にあてはまる。そんな中、地方都市の活力の要素として次のものが必要である。

- ・住民の将来への明るい展望
- ・地方政府のやる気
- ・住民・地方政府・産業の相互信頼関係の強さ

住民が将来に不安をかかえていてはいけなし、地方の役人が、住民サービスの工夫や新たな産業の創出、さらには他の地域と連携したクラスターを形成するといった発想を持てるかどうか、そしてその地域に生活する関係者の信頼関係の強さが必要である。

現状はどうかというと、地方政府は口を開けて国から補助金をもらうことを考え、ビジネスに波及しないものに税金を投入する。同時に自治体の負担金もあることからさらに借金が増える。住民は地方政府にむかって、できるだけ何かをやってもらおうとする。企業は利用価値があるときだけ進出し、不況になると撤退する。そして地域の主要産業が撤退すると、次のようなことが起こる。

- ・商売のノウハウのない地方政府が商売をおこなって失敗する(テーマパーク等)。
- ・地方政府はやる気をなくして意気消沈する。
- ・失業による就業年齢層の流出により高校卒業後の進学や就職による流出により人口減と高齢化
- ・高齢化による医療費と介護費の増加
- ・商店街の衰退と、商店の閉鎖。移動手段がなければ生活困難になる。
- ・税収の減少、地方政府の責任領域の継続のため行政コストの相対的な負担増

- ・ソーシャルキャピタルの減少となる。

(2) ソーシャルキャピタル(社会関係資本)のアイディア

ソーシャルキャピタル(社会関係資本)とはコミュニティにおける価値の共有、豊かなコミュニケーション、思いやりと協力の関係が定着している文化・風土である。通常の「資本」は使えば減少するが、「社会関係資本」は使えば使うほど増加し強化され、人と人を結び付ける働きを持っている。地域活性化にはこの社会関係資本を増やすことが必要であり、そのために必要な条件を整えてあげることが重要である。

社会関係資本を増資するには次のような方法がある。

- ・住民の交流、関わり合いを増やす。
- ・住民が、自発的に目標を設定し、それを実現するためのアイディアを出し合い、協力して実践する。
- ・住民が上記の活動をできるように、地方政府が補完的に支援する。補完性というのは、足りないものだけを上位のものが与えることであり、うるさく口出ししたり、全部を与えたりしてはいけない。
- ・地方政府ができない問題を、一回り大きな社会資本による協力で解決する(産業界、大学)。

次にこれらの社会関係資本を増やし、地域の活性化を目指した研究事例を紹介する。

(3) コープさっぽろと OBS の共同研究事例の紹介

① プロジェクトの枠組み

赤平市を舞台としてコープさっぽろ(以下生協と称す)のソーシャルビジネス(利益を追求しつつ社会に貢献できる事業)のモデル研究を OBS にておこなうこととなった。コープさっぽろの長期的なビジネス利益と社会貢献志向を受けて、ここでは社会関係資本の増資に向けた社会貢献ビジネスを研究し、まずは無料買い物バス、「トドックあかびら号」の運行の社会的効果を分析した。バスは、コープさっぽろへ集客のためだけではなく、隣接する赤平総合病院へ通う人たちのために、開院時間に合わせた時間設定で運行している。バスにはコープさっぽろの会

員であれば無料で乗車できている。

また、赤平市の人口は約1万3千人、その約4割を高齢者が占めている。コープさっぽろが投資を回収するにはおよそ15年を要し、店舗を持続させていくためには、主な顧客層である高齢者のお客さんが元気でなければ、買い物に来店できなくなるため、お年寄りの健康増進が必須であった。

そこでバスを使った、さらなるソーシャルビジネスとして、新たに赤平市、北翔大学生涯スポーツ学部をパートナーに加え、「あかびら・地域まるごと・元気アップ・プログラム」を提案した。

チームにおけるそれぞれの役割は、OBS が全体プログラムの枠組み作りを担当し、北翔大学はお年寄りの健康プラン作り、赤平市は施設提供、コープさっぽろは、無料買い物バスの運行ルートを、市内の病院やお年寄りがスポーツをする場所まで広げることとなった。

このプログラムは、北翔大学にとって生涯スポーツ学部の学生の実習場所を確保でき、自治体にとって福祉や医療に関わる財政負担の軽減につながるメリットがある。コープさっぽろにとっては、バス運行の単体事業における利益を見込めないが、本業にとってプラスになるとともに、地域への社会貢献というミッションを達成できる。

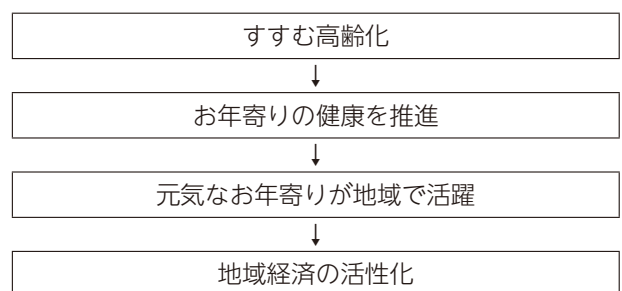


図1 プロジェクトの枠組み

② 「あかびら・地域まるごと・元気アップ・プログラム」の概要

プログラムは、地域の高齢者の体力測定会からはじまった。チームのメンバーが率先して汗を流し、宣伝に工夫をこらし、お年寄りへ測定会の参加を呼びかけたところ536人が参加した。後日、この測定結果を基に、それぞれの人に合わせた運動プログラムを本人に手渡すとともに、スポーツ教室にてど

のようなメニューを提供するかの説明をおこない、教室への参加を呼びかけた。

スポーツ教室は、予算による講師の派遣人数の関係で、体力のレベルに応じた3つの教室が開かれている。参加者がトレーニングを通じ、より体力レベルの高い教室へ移行して、卒業を果たすことが目標である。そういったお年寄りには、次のステップとして、レクリエーションプログラムを提供したいと考えている。

このプログラムに参加しているお年寄りは、集団で行うことの楽しみもあり、評判も上々で、口コミにより協力者、参加者が増えてくることで、次第に盛り上がることとなった。そのため自治体職員のモチベーションもが向上し、赤平市の政策プログラムの中でも無視できない存在になりつつある。

③今後の課題

プログラムは始まったばかりであり、これからさまざまな課題を解決しなければならない。

- ・現在の対応人数は、1クラス20人で3クラスであり、60人を対象にしている。しかし町内には60歳以上の人口が約6000人在住しているため、今後どのように展開していくか。
- ・プログラムを提案してから6カ月間は、チームが無償でサービスを提供していたが、2011年4月からスポーツ教室は有償となるため、個人の負担以外に金銭的不足分をサポートする組織の立ち上げを検討している。
- ・赤平で実践しているプログラムは、発展途上であるが、これを持続可能で汎用性の高いビジネスモデルとして構築し、他の過疎・高齢化都市での展開に着手したいと考えている。



3. おわりに

講演では、プロジェクトを推進していくにあたり、けっして順風満帆ではなく、障害をさまざまな仕掛けで乗り越えていく様子について説明されたが、紙面の都合上、詳細に紹介できないことが残念である。講演後の交歓会においても、参加者は講師と活発な意見交換がなされ、地域活性化というテーマに対する熱心度が感じられた。

今回の講演は、OBSの3期生である須川技術士(地域産業研究会幹事長)が相内教授にお願いしたところ、快諾していただき実現した。したがって、少々紙面を借りてOBSの紹介をしたい。

OBSは、小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻として2004年4月発足した。東北以北唯一の経営系専門職大学院であり、高度な経営能力を備えた企業人の証である経営管理修士号(MBA)を授与している。アントレプレナーシップ専攻は、「アントレプレナーシップ(企業家精神)」をベンチャー起業といった狭い意味に限定せず、既存企業内における新規事業開発や企業・自治体等の組織改革など広く「革新」を実行しうる意識と能力ととらえ、この意識と能力に溢れたMBAホルダーを育成することを目指している。

以来、今年8期目の入学者を迎え、技術士も多く卒業している。筆者も1期生であり、そのほか知り得る限りでは、岡田技術士(1期生)、伊槻技術士(2期生)、中埜渡技術士(3期生)が卒業した。在学中の苦労などを共有したことから、我々のソーシャルキャピタル(社会関係資本)は、技術士という関係に加え、さらに強化された。

筆者の受験動機は総合技術監理部門に合格したものの、その内容に物足りなさも感じ、もっと体系的に勉強したいと考えていたところ、ちょうど新聞で開学の記事を目にしたからであった。他の技術士のOBS受験動機はさまざまであるが、総じて有意義であったということである。興味のある方は受験を検討してはいかがだろうか。

OBSでは一般受験のほかに企業などの組織推薦入試もあり、詳細は下記のURLで確認できる。

<http://www.otaru-uc.ac.jp/master/bs/index.htm>